

平成29年度 地方創生推進交付金・地方創生拠点整備交付金に係る事業実施結果報告(熊本県人吉市)
 (各交付対象事業の重要業績評価指標(KPI)の実績値等)

No	① 交付対象事業の名称	② 交付金の種類	③ 実績額 (うち交付金充当額) 単位:円	④ 本事業における重要業績評価指標(KPI)				⑤ 本事業終了後における実績値	⑥ 外部有識者からの評価		⑦ 実績値を踏まえた事業の今後について
				指標	指標値	単位	目標年月	実績値	事業の評価	外部有識者からの意見	今後の方針
1	スマート林業展開事業 ～川上から川下を繋ぐIoTやG空間を活用した森林SCM(サプライチェーンマネジメント)が支える新たな林業～	地方創生推進交付金(平成29年度当初)	28,431,600 (14,215,800)	指標① 林業従事者増加数	3	人	平成30年3月	6	地方創生に相当程度効果があった	<ul style="list-style-type: none"> ・前年と比べ、実施内容が具体化し相応の効果があったと思います。 ・スマート林業がより多くの市民の方へ知ってもらいたい。 ・人吉版森林クラウドは魅力的なデータだと思います。今後はIoTやG空間の活用を進めていただけたらと思います。 ・地域の森林資源を有効に活用し、新たな人材や雇用を創出し今後益々期待が持てる。 ・これまで通り、継続した活動が必要だと思います。 ・実際に林業従事者、法人等の意見があれば具体的な課題が見えると思います。また、都城市の林業大園での導入事例等があれば今後の展開に役立つのではないのでしょうか。(事例があればですが。) ・専門的で難しい、冬場のラフティングインストラクターの活用は興味をひく。 ・林業は人吉・球磨にとって永遠の大きな課題だと思いますので、事業の継続と具体的な実績が出てくることを期待します。林業は苦手分野ですが、地元金融機関としてお手伝いできることがあれば何なりと申しつけください。 	事業の継続 (計画通りに事業を継続する)
指標② スマート林業ラボからの人材輩出数	5	人	平成30年3月	15							
指標③ 森林SCM協力協定締結団体数	10	団体	平成30年3月	12							
備考欄											
2	人吉賑わい創出事業 ～「訪れたいまち」から「住みたいまち」を目指して～	地方創生推進交付金(平成29年度当初)	20,363,876 (9,975,038)	指標① 滞在人口率(滞在人口/自治体の人口)	5	%	平成30年3月	下記備考欄参照	地方創生に効果が あった	<ul style="list-style-type: none"> ・ひとよし未来会議で高校生が多く参加した事は、非常に意味あるものです。ほとんど市外へ出ていく高校生に対して、人吉を深く知ってもらうことは、人吉を宣伝してもらう事につながると思います。 ・人吉未来会議への参加を希望した高校生が多数いたことは大変すばらしいことだと思います。地元を愛し、地元へ貢献したいという若者の増加が人口流出に歯止めをかける鍵だと思います。KPI指標③(人口増減数)は、長期的に対策が必要になる課題ですので今後の改善を期待します。 ・事業内容(3)(4)(5)については特に興味を持つところである。東京オリンピックまでの限られた時間の中でやり上げる努力は必要。観光協会としても全面的に協力するものである。 ・人口減少の幅が著しい。未来会議などで若い人達から得たアイデアや活発な意見を有効に活用していくと他地域とは異なった活力あるまちが生まれると思う。 ・人吉をより多くの人に知ってもらう事が一番の近道だと思います。テレビ番組の「人生の楽園」や「イチから住」に取り上げてもらうのも宣伝効果は高い。市をあげて「ナイナイのお見合い大作戦」の候補地としてもらう等。実際にプレスステ4の「まいてつ」に人吉を取り上げているみたいで、色々なジャンルで人吉のアピールを期待します。 ・人口増減に関しては、非常に難しい面もあると思う。観光面での集客も良いが、人口を増やして市が潤う街が創出できれば・・・ ・KPI(人口増減)は、会議でもでしたが、年齢層別の増減で表したほうが良いと思います。間違っているかもしれませんが(参考となれば)、銀行の仕事をしているような業種のお客様との会話の中で一番耳にするのが「人がいない」です。だから雇用はあっても人がいないのです。人がいないと企業は潰れます。いかに人を確保するかという事が最大のテーマだと思います。簡単な問題ではないので、本事業のようないろんな取組みの継続が必要だと思います。 	事業の発展 (事業が効果的であったことから取組の追加等更に発展させる)
指標② 移住・定住者数	10	人	平成30年3月	12							
指標③ 人口増減数(平成27年度末人口を基準としたときの次年度以降の年度末人口数)	100	人	平成30年3月	-539							
備考欄	指標①(滞在人口率)はRESASより抽出している。RESASH28年度開発2次リリース(H29.2)に伴うデータ入替により、当初値(入替前)と実績値(入替後)データの出典元およびデータ抽出条件が変更され比較ができない。そのため実績値については、入替後のRESASデータから抽出可能な数値をもとに積算したいが、RESAS上、まだH30.3時点のデータが反映されていないため空欄としている。 「実績値(増分)=実績値(H30.3)-当初値(H28.3)」、なお入替後データでの当初値は117%(H28.3)で、入替後データでの実績値(H30.3)がRESASで未公表。公表時期はH31.2月末予定。										
3	人吉市「小さな拠点」整備事業～一人ひとりが生き生きと輝くまちを目指して～	地方創生拠点整備交付金(平成28年度補正)	21,166,057 (10,582,528)	指標① 施設の収入及び地域への経済波及効果	320	千円	平成30年3月	97	地方創生に相当程度効果があった	<ul style="list-style-type: none"> ・65歳以上の世帯数が増加している現状で、中原コミセンのこの事業は非常に有効だと思います。高齢者と子供たちが「共存できる実感」が湧くと思うし、活気ある街づくりにつながると思いました。 ・美しく利便性の高い施設になりましたね。市民への周知と効率的な活用方法の検討が必要ですね。 ・各校区に事業が広がることに期待する。 ・コミセンを利用する住民は多く、今後も利用者向けにサービスを向上することで収益が発生し、地域コミュニティが創出されていくと思う。 ・この事業を1つのビジネスモデルとして広げていってほしいです。この活動を市民の多くの方に知ってもらいたいと思います。 	事業の改善 (事業の効果が不十分であったことから見直し(改善)を行う)
指標② 給食サービスにおける新規雇用者数	2	人	平成30年3月	1							
指標③ コミュニティセンター利用者数	288	人	平成30年3月	1,362							
備考欄	供用開始:平成29年7月										
4	相良歴史回廊エントランスセンター整備計画	地方創生拠点整備交付金(平成28年度補正)	50,300,668 (25,145,739)	指標① 着地型観光体験プログラム利用料売り上げ額	20	千円	平成30年3月	0	地方創生に効果が あった	<ul style="list-style-type: none"> ・現状、途上段階であり、今後より多くの人に周知が必要。実際、人吉市民の方も知らない人が多いと感じます。 ・かっこいいエントランスセンターになったと思います。残りの施設の改修が楽しみです。ただし、どのようなターゲットの人々に来ってもらうのがまだ定まっていらないように思えました。 ・現段階での評価はできません。今後の展開に期待します。 ・旅カフェがH30.7月末に一部オープンして、これから更に広告PR強化を図り、サービスの向上を行うことで本市への新しい人の流れが作られると思う。 ・周知活動、PRをどんどん行ってほしいです。青井阿蘇神社⇄エントランスセンターの流れをうまく作ると観光スポットとしての価値も上がると思います。まずは人吉市民(特に高校生)に知ってもらう機会があれば長い目で見た宣伝、周知になると思います。 ・これから認知度を高める為の工夫が必要と思われる。 	事業の継続 (計画通りに事業を継続する)
指標② エントランスセンター来館者の数	200	人	平成30年3月	0							
指標③ 日本遺産人吉球磨関連グッズの売り上げ額	0	千円	平成30年3月	0							
備考欄	供用開始が平成30年7月のため、効果の有無はまだ見えていない。										

事業名		スマート林業展開事業 ～川上から川下を繋ぐIoTやG空間を活用した森林SCM(サプライチェーンマネジメント)が支える新たな林業～						
1	総合戦略における位置付け	基本目標 1	目標	名称	施策	名称	主要取組	名称
				1 本市にしごとをつくり、安定した雇用を創出する		ア)地域の産業振興を担う人材育成の強化 ウ)地域の農林水資源、観光資源を活用した新たな地域産業の充実強化 エ)ICTや地理空間等、次世代技術を活用した新たな産業基盤の確立		①地場産業を担う即戦力となる人材の育成に向けた取組の推進 ②地域資源を活用した商品開発・農林水産業の6次産業化に向けた取組の推進 ③地域資源とICTや地理空間といった先進技術を活かした「しごと創り」プロジェクトの実施

事業の内容

2	目的(何のために)	林業の集積が進む本市において当該事業を先駆的かつ戦略的に実施することで、日本各地に存在し国土の約6割を占める森林資源を中心とした地域経済の好循環と、若い世代や世界に対し発信できる「スマート林業」の確立を行い、地方創生に掲げる「しごと」が「ひと」を呼び、「ひと」が「しごと」を呼ぶ、持続可能な「まち」の形成を目指すことを目的としており、平成26年度地方創生先行型上乗せ交付金(タイプI)を受けて実施した「スマート林業構築事業」の成果を活用し、地域連携推進のため「スマート林業展開事業」を行うもの。	4	実績額(円)	28,431,600																							
	3	事業内容(手段、手法など)	<p>下記実施項目を外部委託及び直接実施</p> <p>(1)森林資源情報等の管理・共有 行政・森林組合・林業木材業者の間でデータを共有できる環境として、地域版森林クラウドである「人吉版森林クラウド」を構築、試行運用を実施した。 町内全域の森林を対象に航空レーザ測量を実施し、データを活用した森林計画・管理を実施している金山町を対象に視察を行った。</p> <p>(2)スマート林業プロジェクト実施のための普及・啓発活動、地域での林業認知度向上のためのスマート林業体験ツアー等の企画・実施 平成29年11月11日と12日にふるさと歴史の広場で林業フェアを開催し2,947名が来場した。また、家を建てる世代である乳幼児を持つ親、次世代を担う乳幼児に人吉市の林業や木材を知ってもらい、木と触れ合ってもらい、地元の木材の消費や、林業への理解につながることを目的に乳幼児健診時にアンケートを実施した。その他、移住定住促進に向けて、移住定住希望者に対して人吉市の森林をアピールすることを目的に、熊本県が主催するくまもと移住&UIJターン就職フェアに人吉市ブースを設置し、23名の来訪者へ説明を行った。次世代に向けた普及啓発として、小中学校生、高校・専門学校生504名を対象に林業教室を実施した。</p> <p>(3)スマート林業を実践していく拠点として「スマート林業ラボ」の運営に要する経費(拠点形成、ラボ研究員の誘致)人材育成、またスマート林業普及展開の拠点となるスマート林業ラボを継続的に運用した。ICT(ドローンやTheta)を使った林業の検討や各種研修会等に参加し、林業を実践していく知識を習得した。</p> <p>(4)スマート林業ラボ研究員を中心とした人材育成・就業プログラムを実施 平成30年1月30日に「林業事業体経営の全体像からコスト構造・管理を考える」というテーマで中小企業大学校会議室で開催した。マルカ林業新永智士氏、鹿児島大学奥山 洋一郎氏、鹿児島大学牧野耕輔氏を招聘した。15名が参加し、経営者層をターゲットに林業事業体経営の全体像からコスト構造をとらえ直し、事業収益・設備・人員体制をもとに将来の経営方針を考える研修になった。</p> <p>(5)スマート林業ラボへのサポート スマート林業ラボ研究員に対する人材育成として、NPO法人サウンドウッズが実施している林業コーディネータ養成講座の受講を行った。スマート林業ラボの事業について、事業の方向性、事業メニューについて検討を行った。 また、ICT技術を活用した木材情報の管理運用について先進的な取り組みを行っている団体と意見交換を行い、スマート林業における木材情報の管理活用のイメージを共有し、今後のICT化を促進することを目的に、平成30年2月21日にワークショップを開催した。</p> <p>(6)スマート林業普及に向けた開発等検証に要する経費 ビジネスモデルの深化に向けて、サプライチェーンマネジメントの実現、運用の確認、課題の確認を目的に、実フィールドを用いた検証を実施した。 検証では、川上、川中、川下の代表者により注文材の径級・長級・本数・価格等を取り決めた協定を締結し、市有林を対象に皆伐を実施した。 また、スマート林業を普及させるために必須となる林内(携帯電話不感地帯)と林外(通話可能地域)を結ぶ通信技術について、現在利用可能な通信技術を整理・比較検討を行い、適用可能性の高い無線LAN及び有線LANを活用した林内通信検証試験を実施した。</p>	事業の概要	<p>重要業績評価指標(KPI)</p> <table border="1"> <tr> <td>指標①</td> <td>目標</td> <td>3人</td> </tr> <tr> <td>林業従事者増加数</td> <td>実績</td> <td>6人</td> </tr> <tr> <td>指標②</td> <td>目標</td> <td>5人</td> </tr> <tr> <td>スマート林業ラボからの人材輩出数</td> <td>実績</td> <td>15人</td> </tr> <tr> <td>指標③</td> <td>目標</td> <td>10団体</td> </tr> <tr> <td>森林SCM協力協定締結団体数</td> <td>実績</td> <td>12団体</td> </tr> <tr> <td>指標④</td> <td>目標</td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td>実績</td> <td></td> </tr> </table>	指標①	目標	3人	林業従事者増加数	実績	6人	指標②	目標	5人	スマート林業ラボからの人材輩出数	実績	15人	指標③	目標	10団体	森林SCM協力協定締結団体数	実績	12団体	指標④	目標			実績
指標①		目標	3人																									
林業従事者増加数	実績	6人																										
指標②	目標	5人																										
スマート林業ラボからの人材輩出数	実績	15人																										
指標③	目標	10団体																										
森林SCM協力協定締結団体数	実績	12団体																										
指標④	目標																											
	実績																											
		事業内容	事務事業評価	<table border="1"> <tr> <th>項目</th> <th>判定</th> <th>今後の取組方針</th> </tr> <tr> <td>地方創生に非常に効果があった</td> <td></td> <td rowspan="4">事業の継続 (計画通りに事業を継続する)</td> </tr> <tr> <td>地方創生に相当程度効果があった</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>地方創生に効果があった</td> <td></td> </tr> <tr> <td>地方創生に効果がなかった</td> <td></td> </tr> </table> <p>委員からの意見・要望</p> <p><達成度> ■大きな成果が得られた □概ね成果が得られた □成果が得られなかった <方向性> ■増加する方向にある □現状と変わらない □減少する方向にある <必要性> ■必要性が高い □必要性が認められる □必要性が低い、ない <有効性> ■総合戦略に有効であった □概ね有効であった □有効性が低い、ない</p> <p><その他自由意見> ・前年と比べ、実施内容が具体化し相応の効果があったと思います。 ・スマート林業がより多くの市民の方へ知ってもらいたい。 ・人吉版森林クラウドは魅力的なデータだと思います。今後はIoTやG空間の活用を進めていただけたらと思います。 ・地域の森林資源を有効に活用し、新たな人材や雇用を創出し今後益々期待が持てる。 ・これまで通り、継続した活動が必要だと思います。 ・実際に林業従事者、法人等の意見があれば具体的な課題が見えると思います。また、都城市の林業大国での導入事例等があれば今後の展開に役立つのではないのでしょうか(事例があればですが)。 ・専門的で難しい。冬場のラフティングインストラクターの活用の話は興味をひく。 ・林業は人吉・球磨にとって永遠の大きな課題だと思いますので、事業の継続と具体的な実績が出てくることを期待します。林業は苦手分野ですが、地元金融機関としてお手伝いできることがあれば何なりと申しつけください。</p>	項目	判定	今後の取組方針	地方創生に非常に効果があった		事業の継続 (計画通りに事業を継続する)	地方創生に相当程度効果があった	○	地方創生に効果があった		地方創生に効果がなかった													
項目	判定	今後の取組方針																										
地方創生に非常に効果があった		事業の継続 (計画通りに事業を継続する)																										
地方創生に相当程度効果があった	○																											
地方創生に効果があった																												
地方創生に効果がなかった																												

事業名		人吉賑わい創出事業 ～「訪れたいまち」から「住みたいまち」を目指して～					
1	総合戦略における位置付け	基本目標 1・2	目標	名称	名称	名称	名称
				1 本市にしごとをつくり、安定した雇用を創出する	ウ) 地域の農林水資源、観光資源を活用した新たな地域産業の充実強化	主要な事務事業	① 広域観光連携プロモーション活動の実施
			2 本市への新しいひとの流れをつくる	ア) 人吉球磨の日本遺産を中心とした観光振興と交流促進			① 人吉球磨の日本遺産を中心とした景観・文化振興戦略及びニューツーリズムの戦略の構築・展開
						② 人吉球磨の日本遺産をはじめとした観光資源の磨き上げと観光地等の情報収集・発信機能の強化	

事業の内容

2	目的(何のために)	<ul style="list-style-type: none"> ・地域資源の中から、特に高い集客効果や他地域にはない強みを持っている「鉄道関連資産」のブランド化に向けた取組を進める。 ・本事業で行う各種プロモーション等に合わせ、本市から「人吉の元気」「熊本の元気」を発信することで、熊本地震からの復興を目指す。 ・切れ目の無い「交流人口増加施策」「定住人口増加施策」を展開することで、「賑わい」があり「住みたい」まちづくりの実現を目指す。 	4	実績額(円)	20,363,876		
	3	事業内容(手段、手法など)	<p>○事業名 『人吉賑わい創出事業』</p> <p>○目的 「交流及び定住人口増加施策」の展開により本市への「ひと」の流れを創出すると共に、本市が策定した「まち・ひと・しごと創生総合戦略」に掲げる重要業績成果指標(KPI)の達成を目的とする。</p> <p>○手段 業務の実施に当たり、民間事業者の有する技術等を活用し、本業務を円滑に遂行することを目的として、各提案事業者の業務遂行に關しての知見、技術、経験等を見極め、本業務に最も適した事業者を選定するため、委託事業者を公募型プロポーザル方式で公募。</p> <p>○業務内容 (1)「ひとよし未来会議」の開催 平成28年度に実施したビジョン策定に向けた調査のデータを活用しながら、市民協働による本市移住定住施策の指針となるビジョンの策定に取り組む。 「仕事づくり」「少子化対策」人の流れづくりのテーマ別と「UIターン者」「高校生」の属性別の分科会(「ひとよし未来会議」)に分かれ、計25回の協議の場を開催。 「高校生」分科会は高校生の参加者が予定数よりも大幅に増えたため、4つの分科会に分かれて実施。 参加延べ人数は219人。</p> <p>(2)「ひとよし大未来会議」の開催 「ひとよし未来会議」の意見を踏まえた上で、総まとめの場として「ひとよし大未来会議」を開催。 人吉市民に加え、市外在住の出身者や他の地域でまちづくりに携わる人など、129人が参加。 人吉市の現状を20年前と現在のデータを基に説明し、また他の地域におけるまちづくりの先進事例紹介などのインプットを行った後にワールドカフェ形式で”20年後の人吉市”をテーマに話し合う。</p> <p>(3)企画展の開催 100年以上の歴史を持つJR肥薩線の文化遺産としての価値を伝えることを目的として、人吉鉄道ミュージアム内において、平成28年度に続き「100年レイル肥薩線」企画展を実施し、明治時代の肥薩線に関する文献を展示するなど地域内外に肥薩線の魅力を発信した。また、くま川鉄道についての企画展も実施することで、区域を運行する鉄道の魅力発信にも波及。 ・平成28年度(過年度) 企画展vol. 1 「明治の文献から見る肥薩線の歩み」 ・H29.9月～11月 「くま川鉄道(旧湯前線)」企画展 ・H29.11月～12月 「肥薩線歴史について」企画展 ・H30.2月～3月 企画展vol. 2 「大畑スイッチバック・ループ線について」</p> <p>(4)外国人観光客受入体制の構築 人吉鉄道ミュージアムを訪れる外国人観光客の受入れ体制として、平成28年度導入した音声翻訳機(多機能タブレット)を活用した館内放送(英語・中国語)、また市内観光に関する情報提供を行うなど、スタッフ全員が接客できる環境が整備された。</p> <p>(5)人吉鉄道ミュージアムの管理運営 本市観光の窓口を担っている一般社団法人 人吉温泉観光協会に、本市の観光拠点である人吉鉄道ミュージアムの管理運営を委託することで、運営業務と同時に観光客からの問合せ等に対して迅速で的確な対応が可能となった。また、運営における意見交換の場を活用し、人吉駅滞在時のSL人吉の動向といった観光客が知りたい情報をチラシ化するなど、細やかなサービス向上を即時に行っている。</p>	事業の概要	重要業績評価指数(KPI)	指標①	目標
					指標②	目標	10人
				指標③	目標	100人	
				人口増減数(平成27年度末人口を基準としたときの次年度以降の年度末人口数)	実績	-881人 (計画期間累計値。29年度単年度増減数 -539人)	
				項目	判定	今後の取組方針	
				地方創生に非常に効果があった		事業の発展 (事業が効果的であったことから取組の追加等更に発展させる)	
				地方創生に相当程度効果があった			
				地方創生に効果があった	○		
				地方創生に効果がなかった			
				委員からの意見・要望			
				事務事業評価	<p><達成度> <input type="checkbox"/> 大きな成果が得られた <input checked="" type="checkbox"/> 概ね成果が得られた <input type="checkbox"/> 成果が得られなかった</p> <p><方向性> <input checked="" type="checkbox"/> 増加する方向にある <input type="checkbox"/> 現状と変わらない <input type="checkbox"/> 減少する方向にある</p> <p><必要性> <input checked="" type="checkbox"/> 必要性が高い <input type="checkbox"/> 必要性が認められる <input type="checkbox"/> 必要性が低い、ない</p> <p><有効性> <input checked="" type="checkbox"/> 総合戦略に有効であった <input type="checkbox"/> 概ね有効であった <input type="checkbox"/> 有効性が低い、ない</p> <p><その他自由意見> ・ひとよし未来会議で高校生が多く参加した事は、非常に意味あるものです。ほとんど市外へ出ていく高校生に対して、人吉を深く知ってもらうことは、人吉を宣伝してもらう事につながると思います。 ・人吉未来会議への参加を希望した高校生が多数いたことは大変素晴らしいことだと思います。地元を愛し、地元で貢献したいという若者の増加が人口流出に歯止めをかける鍵だと思います。KPI指標③(人口増減数)は、長期的に対策が必要になる課題ですので今後の改善を期待します。 ・事業内容(3)(4)(5)については特に興味を持つところである。東京オリンピックまでの限られた時間の中でやり上げる努力は必要。観光協会としても全面的に協力をします。 ・人口減少の幅が著しい。未来会議などで若い人達から得たアイデアや活発な意見を有効に活用していくと他地域とは異なった活力あるまちが生まれると思う。 ・人吉をより多くの人に知ってもらう事が一番の近道だと思います。テレビ番組の「人生の楽園」や「イチから住」に取り上げてもらうのも宣伝効果は高い。市をあげて「ナインイのお見合い大作戦」の候補地としてもらう等。実際にプレステ4の「まいてつ」に人吉を取り上げてみたいで、色々なジャンルで人吉のアピールを期待します。 ・人口増減に関しては、非常に難しい面もあると思う。観光面での集客も良いが、人口を増やして市が潤う街が創出できれば・・ ・KPI(人口増減)は、会議でもでしたが、年齢層別の増減で表したほうが良いと思います。間違っているかもしれませんが(参考となれば)、銀行の仕事をしていろいろな業種のお客様との会話の中で一番耳にするのが「人がいない」です。だから雇用はあっても人がいないのです。人がいないと企業は潰れます。いかに人を確保するかという事が最大のテーマだと思います。簡単な問題ではないので、本事業のようないろんな取組みの継続が必要だと思います。</p>		

事業名		人吉市「小さな拠点」整備事業～一人ひとりが生き生きと輝くまちを目指して～					
総合戦略における位置付け	基本目標	1	目標	名称	名称	名称	
	時代にあった地域をつくり、安心なくらしを守るとともに、地域と地域を連携する		ア)時代にあった地域づくりの推進	③中山間地域等における多世代型・多機能型の「小さな拠点」の形成			
	施策		主要な事務事業				

事業の内容

2	目的(何のために)	中原校区において実施している、「給食ボランティア事業」を拡大し、実施回数及び対象者を増やすことで、地元食材の購入等で地元商店街の活用により、域内消費の拡大による地域経済の好循環を創出する。併せて、高齢者をはじめ地域住民の働く場を作り出し、雇用の場の確保に繋げるもの。また、本事業により施設の機能強化・利便性の向上を行うことで施設の収益を増やす。	4	実績額(円)	21,166,057		
	事業内容(手段、手法など)	<p>【目的】 中原校区においては「給食ボランティア事業」を通じ、独居高齢者宅等への配食を通じた見守りを行っているが、本市の65歳以上の高齢単身世帯数は増加傾向にあり、給食ボランティア事業に携わるボランティアの方々の高齢化が進む一方で、今後も給食ボランティア利用者の増加も大いに見込まれる。 需要が今後も拡大傾向にあるが、生産性や効率性が低いため、地域の見守り力を継続し強化するためにも、食材や給食の運搬などのサービスが円滑に行えるよう施設内の環境や機能を整える。</p> <p>【事業効果】 ・施設の機能強化・利便性の向上により施設収益(コミュニティセンター使用料)を増やす。 ・給食ボランティア事業の拡大により、地元食材の購入等で地元商店街を活用し、域内消費の拡大による地域経済の好循環を創出。 ・高齢者をはじめ地域住民の働く場を作り出し、雇用の場の確保に繋げる。</p> <p>【整備内容等】 ①調理室等改修 給食サービスの拡大等に対応するため調理室と、調理室での調理や配達をする際の作業に活用する配送作業室の環境整備及び機能を強化。また、地元食材を活用した料理教室や給食ボランティア育成講座等に対応するため、会議室を整備。 ・1階 調理室改修 ・1階 配送作業室改修 ・2階 会議室改修 ②オープンスペースの整備 管理棟1階にある図書室をオープンスペースとして改修し、施設利用者や地域住民に対する弁当販売や試食会など行える環境を整備。 ・管理棟改修 ③バリアフリーに係る工事 施設利用者の利便性を高めるとともに、高齢者を中心に構成されている給食ボランティアが働きやすい環境を整備。 ・外部通路等改修工事 ④給食ボランティア事業の拡充のための設備整備 配食対象者の拡大や弁当販売の開始に伴って必要となる、作業効率向上のためのガスコンロ等の備品を購入。 ⑤地元食材を活用した各種料理講座等 ・地元食材を活用した料理教室を実施。</p>	事業の概要	重要業績評価指数(KPI)	指標①	目標	320千円
				施設の収入及び地域への波及効果(単位:千円)	実績	97千円	
				指標②	目標	2人	
				給食サービスにおける新規雇用者数(単位:人)	実績	1人	
				指標③	目標	288人	
				コミュニティセンター利用者数(単位:人)	実績	1,362人	
				項目	判定	今後の取組方針	
				地方創生に非常に効果があった		事業の改善 (事業の効果が不十分であったことから見直し(改善)を行う)	
				地方創生に相当程度効果があった	○		
				地方創生に効果があった			
				地方創生に効果がなかった			
				委員からの意見・要望			
				事務事業評価	<p><達成度> □大きな成果が得られた ■概ね成果が得られた □成果が得られなかった <方向性> ■増加する方向にある □現状と変わらない □減少する方向にある <必要性> ■必要性が高い □必要性が認められる □必要性が低い、ない <有効性> □総合戦略に有効であった ■概ね有効であった □有効性が低い、ない</p> <p><その他自由意見> ・65歳以上の世帯数が増加している現状で、中原コミセンのこの事業は非常に有効だと思います。高齢者と子供たちが「共存できる実感」が湧くと思うし、活気ある街づくりにつながると感じました。 ・美しく利便性の高い施設になりましたね。市民への周知と効率的な活用方法の検討が必要ですね。 ・各校区に事業が広がることに期待する。 ・コミセンを利用する住民は多く、今後も利用者向けにサービスを向上することで収益が発生し、地域コミュニティが創出されていくと思う。 ・この事業を1つのビジネスモデルとして広げていってほしいです。この活動を市民の多くの方に知ってほしいと思います。</p>		

事業名		相良歴史回廊エントランスセンター整備計画			
総合戦略における位置付け	基本目標	目標	名称	名称	名称
	1・2		1 本市にしごとをつくり、安定した雇用を創出する	イ)中核企業支援、起業・創業支援等による地域産業の強化	②専門家等の登用による産業支援の強化
			2 本市への新しいひとの流れをつくる	ウ)地域の農林水資源、観光資源を活用した新たな地域産業の充実強化	
主要な事務事業	ア)人吉球磨の日本遺産を中心とした観光振興と交流促進	②人吉球磨の日本遺産をはじめとした観光資源の磨き上げと観光地等の情報収集・発信機能の強化			

事業の内容

2 目的(何のために)	<p>平成27年4月に日本遺産認定を受けた人吉球磨のストーリーを、観光に活用するため、商品価値を高めるプロデュース機能、人吉球磨に観光客を送るガイドセンター機能、総合的に推進するマネジメント機能をもつ「(仮称)旅カフェエントランスセンター」を整備するもの。 人吉球磨全体を歴史文化の空間博物館「相良歴史回廊」と捉え、その入口となる人吉市において、拠点施設であるエントランスセンターを、日本遺産人吉球磨のブランド化アドバイザーである隈研吾氏のデザインにより、人吉球磨産の木材等の素材を活用し、日本遺産人吉球磨ブランドを体現する施設として整備。 併せて、日本遺産を核とした文化振興及びニューツーリズム戦略を構築して展開するほか、地域住民や事業者が、伝統文化、ものづくりの技や知恵を持ち寄り、内外の人々と連携交流を通じて、歴史伝統文化をはじめとした地域資源を収益に結び付け、仕事を創出する拠点化も図るもの。</p>	4 実績額(円)	50,300,668		
	3 事業内容(手段、手法など)	<p>【事業概要】 ①(仮称)旅カフェエントランスセンター整備 旧国民宿舎くまがわ荘(旧相良家下屋敷)の一階部分の一部に、日本遺産人吉球磨ブランドをアピールできるデザインによりエントランスセンターを設置。人吉球磨全域に観光客を押し出すガイドセンターとして、着地型観光体験プログラムの提供、文化財の紹介等を行い、観光客を地域に周遊、滞在につなげる。 ②「観光地域づくり」実践研修 人吉球磨管内の各市町村で「観光地域づくり」の拠点となる各施設において、その管理運営のあり方、地域資源のコーディネート及び資源を活かした事業化手法の確立、担い手となる人材の確保や育成等に係る取組。 ③文化観光魅力発信事業 エントランスセンターにおける、日本遺産人吉球磨の魅力発信強化、持続的な基盤を構築するマネジメント機能として、エントランスセンターの役割や望ましい姿、マネジメント体制を構築し、併せて提供できるプログラム開発を行う。</p> <p>【整備内容等】 ①(仮称)旅カフェエントランスセンター整備 ・【カウンタースペース】 観光客に対し日本遺産人吉球磨の情報及び着地型観光体験プログラムを提供するため、カウンタースペースを整備。 ・【日本遺産等文化財展示スペース】 文化財や写真を展示するミニギャラリー。展示用の壁面等を整備。 ・【物産販売スペース】 日本遺産人吉球磨グッズ販売スペースと展示スペースを整備。 ・【カフェ・交流スペース】 観光客に地元産物を活用した販売品等の提供や休憩及び交流スペースの整備。 ・【バックヤード・事務スペース】 当該施設を管理するための事務スペース等の整備。 ・【バリアフリー対応】 来館される多様な方々の利便性を向上させるため、玄関スロープの整備。 ・【テラス改修】 雄大な球磨川や山並みを有するロケーションを背景にした、展示スペースの魅力向上させるテラスの整備。 ・【外構整備】 景観デザインに配慮して、植栽を整備。 ②「観光地域づくり」実践研修 ・セミナー開催。人吉球磨管内自治体職員、観光関係団体、観光施設等の関係者等、計16名参加。 ③文化観光魅力発信事業 ・伝統文化や文化財のテキスト、イラスト等を作成し、エントランスセンターにて展示。 ・類似事例調査や地域へのヒアリングによる現状把握・分析を行い、エントランスセンターの位置づけ、運営体制の検討、日本遺産人吉球磨を体験できるコンセプトプログラムを造成。</p>	重要業績評価指数(KPI)	指標①	目標
着地型観光体験プログラム利用料売り上げ額(単位:千円)			実績	0千円	
指標②			目標	200人	
エントランスセンター来館者の数(単位:人)			実績	0人	
指標③			目標	0千円	
日本遺産人吉球磨関連グッズの売り上げ額(単位:千円)			実績	0千円	
項目			判定	今後の取組方針	
地方創生に非常に効果があった				事業の継続 (計画通りに事業を継続する)	
地方創生に相当程度効果があった					
地方創生に効果があった			○		
地方創生に効果がなかった					
委員からの意見・要望					
事業評価	<達成度> □大きな成果が得られた ■概ね成果が得られた □成果が得られなかった <方向性> ■増加する方向にある □現状と変わらない □減少する方向にある <必要性> ■必要性が高い □必要性が認められる □必要性が低い、ない <有効性> ■総合戦略に有効であった □概ね有効であった □有効性が低い、ない <その他自由意見> ・現状、途上段階であり、今後より多くの人に周知が必要。実際、人吉市民の方も知らない人が多いと感じます。 ・かっこいいエントランスセンターになったと思います。残りの施設の改修が楽しみです。ただし、どのようなターゲットの人々に来てもらうのがまだ定まっていないように思いました。 ・現段階での評価はできません。今後の展開に期待します。 ・旅カフェがH30.7月末に一部オープンして、これから更に広告PR強化を図り、サービスの向上を行うことで本市への新しい人の流れが作られると思う。 ・周知活動、PRをどんどん行ってもらいたいです。青井阿蘇神社⇄エントランスセンターの流れをうまく作ると観光スポットとしての価値も上がると思います。まずは人吉市民(特に高校生)に知ってもらう機会があれば長い目で見た宣伝、周知になると思います。 ・これから認知度を高める為の工夫が必要と思われる。				